



山田安信 議員
日本共産党



- 中学校を勝高敷地に建設する計画の凍結と再検討を求める市民の声について
- スキージャムが核施設のリゾート事業から、東急不動産が撤退する問題について

議 ①署名が有権者4割7500筆を突破し、過半数をめぐらしている。教育長は、署名が提出されたら考えられると言われたが、「考える」の意味は「聞くだけで計画は変えない」のか「勝高敷地に限定しない変更も含める」のか見解を問う。

理 ②新しい議会は、市民の声を受け止めようとの変化が始まっている。それでも市長と教育長は、勝高敷地の計画に固執するのか。

理 ①市議会をはじめ、長年にわたる協議の積み重ねの中で準備を進めている。反対の声に対しては、子どもたちにとって魅力のある学校作りや、身につけさせたい資質能力をしっかり育む特色ある教育内容等協議し、今後市議会にお諮りしてご意見をいただき、様々な機会で周知を図り、ご理解いただくよう努める。

②昨年3月に再編計画、本年3月に建設基本計画を教育委員会で策定し、併せて予算を上程した。この段階で見直す、ゼロから考えるといえれば、議会を無視し、大変失礼なことだと思っている。議会の議決、お願いしたことを踏まえながら進めているので、

決して独断でやっていると考えていない。議論のすり替えになっていることは指摘しておく。

議 ①第三セクターの株主総会で、東急不動産から保有株式を売却すると説明されたそうだが、株式の売却を市長は認めたのか。

②昭和63年に福井県、勝山市、東急不動産などが締結した「合意書」や「協定書」などで県と市と東急不動産の役割と責任が決められている。東急不動産の保有株式の売却は、これらの約束を破ることになる。「合意書」や「協定書」などを「変更または廃止」したのか、当初の内容どおりに維持されているのか説明を求める。

理 ①東急不動産が所有する勝山高原開発の株式を他企業に譲渡することは東急不動産としての経営判断であり、市の同意は必要ないと考えている。ただし、市長と福井県の中村副知事が、東急不動産本社に向いた際に、引き続き一部だけでも株式が所有できないか等申し入れた。

②市のほつで変更も廃止も行ってないし、行えるものでもない。

常任委員会報告

総務文教厚生委員会

審査の結果、議案5件について全て可決し、陳情2件を不採択としました。

◆新中学校建設開校に向けた進捗状況について

これまでの再編準備委員会の進捗について、校名募集の状況、制服・体操服アンケート、各種語る会の状況について説明がありました。委員からは、市民アンケートの実施を求める意見や、制服の選定、給食の方式決定などの際に、この学校に行きたいと思ってもらえるような魅力が必要という意見など、様々議論しました。

理事者からは、今後とも市民に開校に向けた準備の進捗などの周知に努め理解を求めていくことや、子どもたちのために、よりよい学校、魅力ある学校になるよう、取り組んでいきたいとの回答がありました。

◆プラスチック資源の分別収集について

勝山市では、令和6年4月1日からプラスチック資源の分別収集を開始することの説明がありました。

委員からは、資源ごみの収集日を再検討すること、一旦燃えるごみに移行した経緯もあり、回収する品目、ステーションに出す際の注意事項など、わかりやすく説明し、トラブルにならない対応を求めました。

理事者からは、10月以降に地区単位で住民説明会を行うが、それまでに資源ごみの回収日程を再検討すること、対象品目をイラスト等でわかりやすく説明すること、分別する目的をしっかりと説明していくことなど説明がありました。

